

第55回

日本リハビリテーション医学会

学術集会 が6月28日(木)～

7月1日(日)に 福岡国際会議場

にて開催されます。

当院からは、本庄真子 理学療法士
が学術発表をしますので、

お知らせいたします。



公益社団法人
日本リハビリテーション
医学会 THE JAPANESE ASSOCIATION
OF REHABILITATION MEDICINE



会員専用
ページ ENGLISH

日本リハビリテーション医
学会の概要

市民のみなさまへ

会員のページ

専門医委員会

リハビリテーション科女性
医師ネットワーク

医学生・研修医の方へ

HOME
サイトマップ

SEARCH

地域別専門医リスト
地域別認定臨床医リスト

日本リハビリテーション医
学会
認定研修施設リスト



サイト内検索

会員のページ

ホーム 会員のページ 学術集会

学術集会

今後の学術集会

第55回	会期	2018年6月28日(木)～7月1日(日)
	会場	福岡国際会議場
	テーマ	再生を羽ぐくむリハビリテーション医学
	会長	浅見 豊子 (佐賀大学医学部附属病院先進総合機能回復センター 診療教授)
第2回秋季	会期	2018年11月2日(金)～11月4日(日)
	会場	仙台国際センター会議棟及び展示棟
	テーマ	リハビリテーション医学はAdding Life to Years and Years to Life (ADL・QOLの改善と寿命の延長)
第56回	会期	2019年6月12日(水)～15日(土)
	会場	神戸コンベンションセンター
	テーマ	Cutting-Edge Trends of Rehabilitation Medicine
第3回秋季	会期	2019年11月15日(金)～17日(日)
	会場	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ
	テーマ	One for all, All for one リハビリテーション医学の“ちから”
	会長	正門 由久(東海大学医学部専門診療学系リハビリテーション科学 教授)

過去の学術集会

第1回秋季	会期	2017年10月28日(土)～29日(日)
	会場	大阪国際会議場(グランキューブ)
	テーマ	すべてがかわるリハビリテーション-新専門医制度、地域とリハ、治療革新-
第54回	会期	2017年6月8日(木)～10日(土)
	会場	岡山コンベンションセンター(ママカリフォーラム)ほか
	テーマ	エビデンスに基づく地域包括ケアシステムの推進



PAGE TOP

▲PAGE TOP

「人工膝関節全置換術後の歩行について～床反力計・三次元動作解析装置を用いて～」
○本庄真子¹ 小山佳恵¹ 畑山幸穂¹ 坂本幸大¹ 高橋智史¹ 明道知巳¹ 内藤浩平²

1 西の京病院 リハビリテーション科

2 西の京病院 整形外科

【はじめに】

当院では、変形性膝関節症(以下膝 OA)の治療に対して両側同時および片側人工膝関節全置換術(以下TKA)を施行している。前研究ではTKA術前、術後3週、術後6ヵ月の客観的歩行評価を報告したが今回は理学療法評価を含めた客観的歩行評価を床反力計、三次元動作解析装置を用いて比較検討したので報告する。

【対象および方法】

対象はTKAを施行した膝OA患者、両側同時および片側TKA23例36膝、平均年齢73.8±8.0歳、全例女性、測定時期は術前、術後3週、術後6ヵ月とした。測定項目はストライド、歩幅、歩隔、関節可動域検査(以下ROM)、徒手筋力検査法(以下MMT)、片脚立位、Timed Up and Go Test(以下TUG)、10m歩行とし、各々の経時的変化をt検定を用いて比較検討した。

【結果】

両側同時および片側TKAの術前、術後3週、術後6ヵ月の測定項目結果を以下に示す。ストライドは平均83.7±20.5cm→81.0±19.0cm→87.2±19.7cmと術後3週から術後6ヵ月で有意に拡大した。歩幅は平均41.4±10.4cm→40.1±9.5cm→43.3±9.9cmと術後3週から術後6ヵ月で有意に増加した。歩隔は平均12.5±4.1cm→14.1±3.3cm→12.2±4.1cmと術前から術後3週で有意に拡大し術後3週から術後6ヵ月で有意に減少した。ROMは伸展で改善が認められ、MMTでも伸展で改善が認められた。片脚立位、TUG、10m歩行に関しても術前から術後6ヵ月で有意に改善が認められた。

【まとめ】

両側同時および片側TKAの術後3週から術後6ヵ月でストライド、歩幅、歩隔、TUG、10m歩行で有意に改善が認められた。